

美幌版総合戦略に係る事業実施結果報告

(各事業における実績額及び事業効果等)

基本戦略1

基本戦略2

美幌版総合戦略に係る事業実施結果報告

(各事業における実績額及び事業効果等)

基本戦略3

美幌版総合戦略に係る事業実施結果報告

(各事業における実績額及び事業効果等)

基本戦略4

No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額		③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います	⑦ 事業費総額(①)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います	⑧ 指標値に対するH27実績値の内容	⑨ 外部有識者からの評価		⑩ 実績値を踏えた事業の今後について			
			年度	総額	指標	指標値	単位	目標年月						事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由		
			26年度	0	指標①	空き店舗活用件数	2	件	H28.3	0	0	地方創生に効果がなかった	実績は無かったものの当該制度を維持することで、空き店舗の活用が推進されるものと考える。				事業の継続	空き店舗の解消を促進することにより商店街の活性化が図られるため。	
1	空き店舗活用事業	空き店舗を活用して新規企業・チャレンジショップ支援などを行い、街中に賑わいや活力を創出する。	27年度	0	指標②														
8	ワンコインバス、乗合タクシー等利用促進事業	地域住民の足となっている路線バス、ワンコインバス及び町が運行する混乗スクールバス等の維持確保や利便性向上に努めながら、公共交通の確保・維持を推進する。	26年度	17,811,000	指標①	利用者数(H26.10～H27.9)	38,000	人	H27.9	33,968	31,652	地方創生に相当程度効果があつた	人口減少に伴う全体の利用者減少や美幌校高線を利用する生徒利用の減少も影響している。	生活バス路線運行維持費補助金 18,109千円 ・阿寒バス：市内循環線 6,872千円 ・網走バス：網走一美幌線 3,410千円 ・北見バス：北見一美幌津別線等 6,787千円 ・北交ハイヤ：乗合タクシー 1,041千円	利用者数(地域内フィーダー系統の利用者) ・市内循環線 26,281人 ・美幌校高線 3,681人 ・北見バス 1,690人 計 31,652人			事業の継続	利用実態の検証と住民ニーズを把握しながら、利便性の向上と利用促進を図る。
10	美幌町まちづくり活動奨励事業	住民自らの知恵と行動により、まちづくり諸活動を奨励するもの。自治会や団体・組織を対象に地域の公共的課題を自主的かつ継続的に取り組む事業に支援し、その活動継続と発展を図るもの。	26年度	200,000	指標①	事業の利用件数	3	件	H28.3	1	2	地方創生に相当程度効果があつた	町民団体等が主体の事業に対して補助する提案事業型の補助金である。町民団体のまちづくりに効果があつたと検証する。	補助金額： ①「パブルサッカー大会IN美幌」 205,000円 ②「びほろ元気なまちづくり講演会」 440,000円 計 645,000円	①「パブルサッカー大会IN美幌」…美幌では新しいスポーツイベントである「パブルサッカー」が開催でき、町民をはじめ町外の方とも交流する機会ができ、話題性による美幌町への集客で、観光・宿泊飲食への効果も期待できる。 ②「びほろ元気なまちづくり講演会」…実施のメンバー達は、異業種交流や将来へのまちづくりに資する人材育成につながる。また講演会自体は、広く町民に波及効果。		事業の継続	町民による自発的なまちづくり活動はこれからも重要であり、この活動に対する町の補助が必要であるため。	
14	ICT教育環境整備事業	町内の中学校でICT(情報通信技術)を活用し、確かな学力を育成する教育を推進します。	26年度	6,902,126	指標①	国際整備指針に基づきICT機器必要数	4	校	H28.3	1	4	地方創生に相当程度効果があつた	国際整備目標に準じて普通教室に大型モニター、実物投影機のICT機器を小学校1校に先行整備したところ、授業で活用する機会が大幅に増え児童への教育効果も高まった。	小学校機械器具：2,973,000円 中学校用備品：11,656,000円	大型モニター、実物投影機、プロジェクター、コンピュータ機器		事業の継続	整備計画に基づきICT機器を充足し、児童生徒の学力向上を図る。	
15	少人数学級推進事業	きめ細かな学習指導環境を整えることを目的に、各小学校の全学年で35人学級を実現すべく、期限付教諭を任用する。	26年度	8,720,196	指標①	町費負担教員	2	人	H27.4	2	2	地方創生に非常に効果的であつた	すべての小学校の全学年で35人学級の実現ができたことにより、一人一人の児童にきめ細かな指導を行うことができた。	社会保険料：1,248,918円 臨時職員賃金：8,138,304円 健康診断委託料：26,438円			追加等更に発展させる	今後も未来を担う子どもたちの学力向上を図るために、教育環境の整備を推進していく。	
17	博物館との連携事業	博物館の学芸員と教諭との連携により、美幌町の自然体験や観察会、工作教室を実施し、地域への郷土心の養成と特色ある授業を実施する。	26年度	0	指標①	連携事業実施校	5	校	H28.3	4	5	地方創生に効果があつた	博物館との連携による体験学習により、地域資源を活用した学校教育の充実が図られた。				事業の継続	今後も地域資源を活用した博物館との連携事業を推進していく。	
18	学生ボランティア学習サポート事業	夏季・冬季の長期休暇中の小中学生に東京農業大学の学生が勉強を教え、児童・生徒の学力向上を図る。	26年度	156,380	指標①	学習サポート事業実施校	5	校	H28.1	5	5	地方創生に非常に効果的であつた	学生ボランティアによる長期休暇中の満喫サポートを行うことにより、学力向上と学習習慣の定着が図られた。	報償費：19,800円 食糧費：64,800円 保険料：12,800円			事業の継続	今後も基礎学力の向上と学習習慣の定着を図るために、学習サポート事業を継続していく。	
19	国際交流事業	平成4年からニュージーランド・ケンブリッジ地区と友好姉妹都市の関係が継続され、両地域における人材派遣として「高校生短期交換留学」を実施。さらに隔年でケンブリッジ高校から短期留学の受け入れも行う。	26年度	294,102	指標①	留学生(美幌高校)の人数	2	人	H28.3	1	2	地方創生に相当程度効果があつた	美幌高校からケンブリッジ高校へ短期留学を予定である2名派遣することができた。ケンブリッジ高校への留学実施で、美幌と友好姉妹都市である地域との人的交流が継続でき、生徒自身において将来を考える機会となり、事業効果はあると検証する。	国際交流事業消耗品 5,140円 (留学レポート・写真の展示用) 高校生短期交換留学事業負担金 715,115円 内訳：渡航費用(高校生2名) 398,000円 ・授業料等(〃) 317,115円	平成27年7月22日 出発～ 8月12日 帰町 留学先：友好姉妹都市ケンブリッジ(NZ)のケンブリッジ高校 留学生：美幌高校普通科2年、3年の 女子生2名 留学内容：year1レベル(高校1年程度)の授業を受ける 日本の高校とは授業形態や生徒の積極性の違いを体験。この経験が帰国してから生徒自身の積極性を意識する切っ掛けとなつた。英語の勉強に一層意欲。帰国レポートを提出済。		事業の継続	国際社会に対応する人員の育成は今後も必要であるため。	
20	防災対策事業	災害時に備えた設備を整えるとともに、町民と関係機関が連携した自主防災訓練及び地域避難訓練を実施し、防災体制の強化を図る。また、地域住民の指導者として町民防災リーダーを養成する。	26年度	※	指標①	自主防災組織の結成率(H31)	73.75	%	H32.3	66.20%	66.70%	地方創生に相当程度効果があつた	自治会連合会による訓練などをとおして、未設立自治会への働きかけなど、積極的な取組みにより、平成27年度、1自治会において自主防災組織の設立に至った。	防災無線保守点検 ・防災情報配信システム保守業務委託 ・避難所等AED借用料 ・備品購入費(防災用タブレット) ・備品購入費(携帯型無線機セット)	422千円 540千円 192千円 517千円 592千円	自主防災組織の促進が図られた。 ※平成26年度は、実施機関の予算を一括りにしていたため、「防災対策事業」としての実績額は出せない。(防災関係総額で約1,600万円)		事業の継続	今後も継続して事業をすすめ、防災・減災対策の強化を図る。